

桜 歯 ニュース

2021. 1. 15
VOL.209



日本大学歯学部ホームページ： <http://www.dent.nihon-u.ac.jp/>



ウィズコロナ時代における学修

学務担当 今村 佳樹

令和2年は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された年でした。教員にとっても学生にとっても、過去に経験のない教育学修形態を強いられ、すべてが手探りの状況でした。歯学部では、他に先駆けて遠隔授業（テレラーニング）システムを導入し、学生へのアンケートを行いながら改良を施してきました。6月末に行いました遠隔授業全体への感想では、38%の人がとても良い、52%の人が良いと答えており、9割の学生は同遠隔授業システムを好意的に評価しています。この値は、他学部のデータと比較しても圧倒的に高い数値ですが、この好意的な評価は、裏を返せば学生にとって好都合な学修形態となっている可能性も否定できません。授業で配布した資料はオンラインで入手可能であり、授業の内容も後刻の確認が可能ないように、授業を録画して自由にアクセスできるようになっています。学生にとっては、通学やクラブ活動に要していた時間も無くなり、より多くの時間を自由に利用できるようになっています。これらのことで、学生にとってはコロナ禍以前よりもさらに自己管理能力が問われる時代となったといえます。令和3年もワクチンが行き渡るまでは、昨年同様の対応が必要と考えます。自宅での学修方法に悩みを持っている人は、クラス担任や学習指導委員に相談して、効果的な時間の使い方、効率的な学修の行い方を実践してください。

[\[今村教授から年頭の挨拶 \(YouTube\)\]](#)

(教授 口腔診断学講座)

新春号企画「日本大学歯学部未来を聞く」

新春号企画「日本大学歯学部未来を聞く」について

桜歯ニュース編集委員会

今後の日本や世界の歯科医療・歯科医学分野での学部教育・研修、歯科臨床、基礎研究等の在り方が、新型コロナウイルス感染症蔓延に対する新たな社会的ニーズにより問われています。このような「With コロナの時代」のなかで日本大学歯学部として、中長期的にどのように取り組むべきかについて学内で議論を深めていくことは必要ではないでしょうか。そこで桜歯ニュースは第209号から以下のような第5回の特集を企画いたしました。

第209号(令和3年1月15日発行)

特集 第1回 巻頭 Society5.0の歯科医師育成を目指して

特集 第2回 ここまで解明された新型コロナウイルスについて

第210号(令和3年4月15日発行)

特集 第3回 With コロナの時代の地域歯科医療の実態経済

特集 第4回 With コロナの時代の歯科医療システム

第211号(令和3年7月15日発行)

特集 第5回 With コロナの時代の臨床・研修の在り方

本誌に掲載されました特集の第1回は本田和也歯学部長、特集の第2回は今井健一教授にご執筆いただきました。これらの記事が、これから起こりうる先の見えない変化をふまえ、現学生およびこれから入学してくる学生が、どのような社会でも充分に対処できる力を付ける教育、その時に必要な再学習の機会を提供できる教学の在り方を考える契機となることを期待いたします。引き続き、皆様におかれましては本誌へのご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

「Society 5.0時代の歯科医師育成を目指して」



歯学部長 本田 和也

世界的な新型コロナウイルス感染拡大を契機として社会・経済、そして医療分野において新たな発想に基づいた業態変化が急激に起こりつつあります。私どもの歯科医療・歯科医学界も、この時代の要請に応えるべく未来社会の歯科医療を担う学生諸君と共有し、ともに歩んでいくことになろうかと思えます。

そこで新春企画「日本大学歯学部未来を聞く」におきまして「Society 5.0の歯科医師育成を目指して」を寄稿いたします。

Society 5.0とは狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されたものです。

Society 5.0での社会では、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、今の時代の課題や困難を克服する時代が来るといわれています。つまり、人工知能(AI)により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。歯科医療にも遠隔診断や遠隔治療が導入され、ひょっとしたら、受付や診療補助にはロボットがいる時代がくるかもしれません。大きな社会変革(イノベーション)が来ることが予想されています。

本学部は佐藤運雄博士が大正5年に創設してから100年を超えました。佐藤先生は「医学的歯学」と「和の精神」を述べられています。この言葉はSociety 5.0の時代がきても本学部の同窓生の心の中で生きていくと思っています。

私は医療の現場では、やはり人と人との温かい温もりのある関係はいつの時代が来ても必要であると考えています。本学部では「自主創造」の精神に基づいて、21世紀の高度な歯科医療に適切に対応しうる医療人を育成し、超高齢者社会に対応した一人一人が快適でより安心できる医療の提供できる歯科医師養成を目指します。

本学部の今後の発展のために皆様のご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(教授 歯科放射線学講座)

新型コロナウイルスのしたたかな 生存・子孫繁栄戦略



今井 健一

昨年の今頃、中国・武漢での新型コロナウイルスの出現が報道され始めました。私たちはまだ、通常的生活をしており、その頃発行の桜歯ニュースに、私は以下のようなことを

書きました。「五輪や万博等の開催を控えるわが国では、感染症対策が重要です。世界中から多くの人々が来日するため、日本で流行していない感染症が持ち込まれる可能性があるからです。(中略) 人類の歴史は感染症との闘いの歴史とも言われます。新興感染症が発生し続ける今日、この闘いが終わる日は来そうにありませんが、この時間も自らの危険と隣り合わせで病原体と対峙している医療従事者や研究者がいることを忘れてはなりません」。新型コロナウイルスが発生する前に、感染症の脅威を紹介したわけですが、オリンピックの延期や授業のオンライン化など、COVID-19のパンデミックが私たちの日常生活を激変させてしまうことなど、全く想像できませんでした。

新型コロナウイルスについては、既に多くの総説などで解説されていますので、ここでは「ウイルスの視点」から考察をしてみたいと思います。新型コ

ロナウイルスはゲノムとしてのRNAとそれを覆う殻だけの単純な構造をしています。殻に存在する突起が、ヒトの細胞のACE2という普段は血圧調整に関わる分子にくっつくことでウイルスは細胞内に侵入します。しかし、ウイルスは細菌とは異なり自力で増えることが出来ません。それどころか、呼吸や栄養を取ることさえ出来ません。ヒトの細胞を乗っ取り、あたかも私たちの遺伝子と同じような顔をして自身のゲノムを細胞に増やしてもらうわけです。ウイルスの最大の特徴はこの細胞に寄生するところにあり、抗ウイルス薬開発の最大の壁となっています。薬でウイルスを攻撃すると、私たちの細胞も傷ついてしまうからです。

新型コロナウイルスのゲノムRNAは約30kb(3万塩基)で、RNAウイルスの中で最大です。インフルエンザウイルスやエイズウイルス(HIV)の約3倍ものゲノムを持っています。ウイルスは良く変異をしますが、インフルエンザやHIVの変異は自身の姿を変える原因となるため、薬やワクチン開発をより困難にします。HIVは発見されて40年。未だワクチンは出来ておらず、この先も出来る見込みはありません。ウイルスの変異は、ウイルスがヒトの免疫や抗ウイルス治療に対抗する生存戦略とも言えます。しかし、新型コロナウイルスの場合、3万塩基という巨大ゲノムですので、多くの遺伝情報を有している反面、全く同じものを複製すること自体が困難です。ウイルスが増えるたびに変異が入ってしまい、変異のしすぎでウイルス自体が死んでしまう可能性もあります。これを防ぐため、驚くべきことにこのウイルスは自身のゲノムをある程度修復できる酵素を持っているのです。ウイルスの進化過程で備わったものだと思われませんが、自身に程よい変異を入れて薬やワクチン、ヒトの免疫から身を守りつつ、生き延びる戦略を身に着けているように見えます。

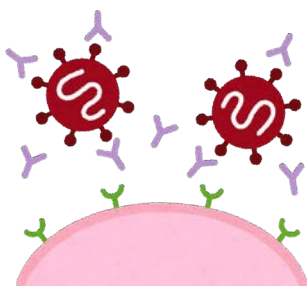
さらに、新型コロナウイルスは近縁のSARSコロナウイルスとは異なり、無症状の人からも拡散することが感染対策を困難にしています。エボラウイルスによるエボラ出血熱は致死率が平均50%。感染者の血液や分泌液、体液に触れるだけでも感染し、2人に1人が亡くなってしまいう大変怖いウイルスですが、「感染者の死」は「エボラウイルスの死」も意

味します。SARS コロナウイルスの流行・終焉から約20年。この間、新型コロナウイルスは、「無症状者からの感染」という新たな戦術を身につけたのでしょうか。ヒトの会話・食事・移動という日常の行動が、ウイルスの拡散を手伝ってしまっている、という非常に厄介な状態となっています。これも、新型コロナウイルスが子孫を増やし世界中にその住処を拡大するための重要な戦略かもしれません。

人類が初めて、そして唯一根絶するに至った天然痘ウイルスとは異なり、コロナウイルスは、野生動物にも感染するため、人類がヒトからウイルスを排除したとしても、野生動物の中で生き延びたウイルスが再びヒトに感染する恐れがあり、その根絶は不可能と考えられます。また、薬剤やワクチンが開発されたとしても、ウイルスが変異するためにすぐに無効となってしまう可能性もあります。新型インフルエンザウイルスやジカウイルスの出現、エボラウイルスの再流行などに続き、COVID-19のパンデミックはウイルスの脅威に対する人類の対応力が試されているように思えてなりません。

最後に、COVID-19においても口腔は重要です。口腔は新型コロナウイルスの重要な侵入門戸であるとともに、ACE2が舌や口腔粘膜に発現していたり、唾液にウイルスが無数に含まれていたりなど、改めて口腔が注目されています。COVID-19患者の肺や喀痰から口腔細菌が見つかることもわかってきました。口腔健康管理が実際に肺炎の予防に有効なことから、口腔をきれいに保つことはCOVID-19重症化に関わる基礎疾患の予防と改善のみならず、COVID-19進展そのものにも効果がある可能性があります。歯科医療と歯学研究はCOVID-19の克服にも大変重要な位置を占めているのです。

(教授 細菌学講座)



研究のすすめ

研究担当 佐藤 秀一



「大学院のすすめ」「論文のすすめ」に続き、本年は「研究のすすめ」、研究について考えてみたいと思います。「研究」を広辞苑で調べると「よく調べ考えて真理をきわめること」と記載されています。

大学で行われている研究は、とくに専門的な研究として行われる学問、つまり学術研究のことです。文部科学省は、この学術研究について、人が誰も持つ「あれは何か」「どうなっているのか」「なぜか」といった知的好奇心・探究心を出発点としていることから、「それ自体人々の知的好奇心・探究心を満たすものであり、優れた知的・文化的価値を有するもの」としており、研究は社会的に非常に重要であり、価値の高いものであると評価しています。

歯学部創設者の佐藤運雄先生は「歯科は技能偏重の歯抜き師・入れ歯師の延長線にあるものではなく、十分な学問に裏打ちされた医学の一分野であるべき歯科医学で代表されるものではなく、口腔科学 (Stomatology) と称されるべきであると」提言され、歯科における研究の重要性を当時から訴えてこられました。歯学部では、この教えを実現すべく、これまで多くの研究が行われ、たくさんの成果を発表してきました。歯学部大学院では、さらに良質な研究を行い、評価の高いエビデンスを蓄積していくことが社会使命として課せられていると考えます。今年は待ちに待った歯学部の新校舎が完成します。その中には新しい研究施設として共同研究室や新動物ラボなどが建設されます。今後、歯学部の学術研究がますます発展することが期待されます。また、来年度も多くの卒業生が歯学部大学院に入学し、研究していただけることを待っています。

(教授 歯科保存学第Ⅲ講座)



奨学金について



学生担当 宮崎 真至

学生の修学支援のために、日本大学及び歯学部独自の学内奨学金や、学外の奨学金財団による以下の奨学金制度が利用可能です。それぞれ必要に応じて活用して下さい。

1. 給付型奨学金

- | |
|---|
| 1) 日本大学特待生:学業成績優秀にして品行方正な学生に対し、毎年度選考の上、特待生として、いずれかの奨学金を給付(甲種:授業料1年分相当額の半額及び図書費12万円、乙種:授業料1年分相当額の半額) |
| 2) 日本大学創立130周年記念奨学金:経済的理由により学費等の支弁が困難である学部生(年額30万円) |
| 3) 日本大学事業部奨学金:経済的理由により学費等の支弁が困難であり、学業成績が優秀な学部生(年額10万円) |
| 4) 歯学部佐藤奨学金(第1種):学業成績が優秀な学部生(年額20万円あるいは10万円) |
| 5) 歯学部佐藤奨学金(第2種):課外活動等に顕著な功績のある学部生(年額10万円) |
| 6) 歯学部佐藤奨学金(第3種):海外で開催される学会で研究発表をする2~3年の大学院生(年額上限50万円) |
| 7) 歯学部同窓会奨学金:学業優秀で課外活動に顕著な成果を収め学部の発展に貢献した学部生(年額10万円)及び学部学生への学習指導貢献が顕著である大学院生(年額5万円) |
| 8) 日本大学古田奨学金:学業成績が優秀で人物が優れている大学院生(年額20万円) |
| 9) 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金:学業成績が優秀で人物が優れている大学院生(年額20万円) |

2. 貸与型奨学金

- | |
|--|
| 1) 日本大学歯学部佐藤奨学金:人物が優れ、不測の事態により経済的理由等で学業継続が困難な学生(高学年)に対して選考の上、授業料相当額を限度に日本大学歯学部が貸与。 |
| 2) 日本大学歯学部後援会奨学金:人物が優れており、将来歯科医師として有望であること。経済的理由により学費の納入が困難であり、かつ他の奨学金による支弁が受けられない5年生以上の学生(原則として当該年度の授業料相当額以内)に貸与。 |

3. 学外の奨学金

- | |
|--|
| 1) 支援機構の奨学金:学部生及び大学院生には「第一種(無利子貸与)」、「第二種(有利子貸与)」があり、多くの学生に貸与されている。将来の返還については、次の世代の奨学金となるため、厳格な仕組みで運用されている。また、授業料等減免・給付型奨学金などもあり、詳細は http://www.jasso.go.jp/ を参照。 |
| 2) 森田奨学育英会奨学金:学部6年生又は大学院4年生で、学業・人物ともに優秀かつ健康と認められる者に対して、選考の上奨学金が給付。 |
| 3) その他の制度:提携教育ローン制度等もあり、上記を含めて詳細は学生課まで。【問い合わせ先(学生課)】03-3219-8004 |

(教授 歯科保存学第I講座)

2021年度 歯科医師臨床研修 選考試験について



卒後教育担当 外木 守雄
(教授 口腔外科学第I講座)

総合診療科長 紙本 篤
(准教授 総合歯科学分野)

本学部付属歯科病院臨床研修
歯科医の選考試験は、2020年8

月22日に実施されました。採用定員140名のところ、学外からの志願者を含め総数193名の受験者でした。この臨床研修制度は平成18年4月から必修化され、歯学部生にとっては『就職試験』という位置付けになっております。本学部では、より豊富な臨床経験を獲得することを目的として、協力型臨床研修施設と連携を図る複合式プログラムの募集人数を増加、単独プログラムを少数精鋭の形式に変更することにより、研修歯科医一人当たりの経験症例数を増加できるように昨年度より改正しました。選考基準は「書類審査」、「面接」及び「筆記試験」で構成されております。本学部生に対しては、「面接」が免除されており、在学中の学生生活における「生活態度」がそれに該当する形で評価され、「生活態度」は「授業態度」をはじめ「出欠席状況」・「部活動」・「学内外における学校行事への参加状況」・「表彰歴」などが総合的に判断されます。また、「書類審査」では5年次までの「学業成績」などを評価します。一方、他大学受験者に対しては、本学部生達と切磋琢磨して研修する人材を選考することを目的として、従来は集団面接をおこなっておりましたが、新型コロナウイルス感染防止に配慮し、個人面接としました。本学部での研修を希望する学生は、低学年より有意義で充実した学生生活を送り、「筆記試験」や「学業成績」に対応するうえで、より一層日々の自主的な学習に取り組んでいただきたいと思います。本歯科病院にマッチングした結果は以下の通りです。

	受験者	S	C	O	P	R	CD	合計
本学部6年生	93	11	15	5	14	17	8	70
本学部既卒者	49	13	9	0	12	8	3	45
他大学出身者	51	3	3	0	1	14	4	25
合計	193	27	27	5	27	39	15	140

なお、プログラム詳細については日本大学歯学部ホームページを参照してください。

本歯科病院にマッチングした方はもちろんのこと、本学部の6年生全員が歯科医師国家試験に合格し、2021年度の歯科医師臨床研修を開始できることを祈念致しております。

いま夢中で、
この仕事!

「外科医はメスで勝負」

西久保 周一

私は日本大学歯学部附属歯科病院が新しくなった2018年10月に亀田総合病院口腔外科より本学に移ってきました。前職場では口腔癌をはじめとする多くの疾患の治療に従事しました。現在のライフワークは顎変形症治療です。患者は、噛めない、骨格的な問題による心理的なストレスを感じて日々を過ごし、私たちのところにたどり着きます。私たちのできることは、その気持ちを真摯に受け止めて、一生懸命に治療をしてあげることです。

当科は、多くの先生方の協力のお陰で、年間150例を超える顎変形症手術を行なう国内トップクラスの“顎変形症治療センター”となっています。“外科医はメスで勝負”が私のモットーで、毎日手術のことばかり考えております。

私の経歴は少し変わっているのかもしれませんが、卒業直ぐに3年間開業医に勤めました。そこでは、まず医療人としてどうあるべきか、医学を学ぶ姿勢を教わりました。当時はやる気に満ち溢れておりましたが、落ち着いて医学を学ぶことの必要性がありました。卒業4年目から大学院で研究に従事させていただきました。そこでは、物事の本質へのアプローチの仕方、考え方を教わりました。大学院卒業後は、ご縁があり現在の師匠である外木守雄先生の下で口腔外科を学ぶようになりました。その時、その瞬間、その時代に心の師匠がいて、素晴らしいアドバイスをくれ、背中を見せてくれました。私自身はそれに対し、真っ直ぐにポジティブにそのアドバイスの本質を一生懸命に考えました。紆余曲折あり、現在にたどり着けているのは、多くの師匠、仲間、患者のお陰と思い、謙虚な気持ちを大事にしながら仕事をさせていただいております。



(助教 口腔外科学第I講座)

ワールド・カフェに参加して

竹内 維吹

この度ワールド・カフェに参加して、議論を重ねる度に他学部の方々と打ち解けられた事から、私はコミュニケーションの重要さを感じることができました。今年は遠隔での開催でしたが、確かに画面の奥にはそれぞれ違う意見や声色、視点を持つ新しい時代の創造者達がいまいました。現代人が好む傾向にある数多の光を発する無機質な「物」との言葉のない会話より、たった一色、されど誰にも真似出来ない光を発する「者」との温もりのある会話の方がずっと価値のある事だと感じました。大学という狭い世界にも多種多様な人々が存在する事から、地球という極大な世界の広さに恐れ慄くと共に新しい出会いに心が躍るような気がします。ワールド・カフェという経験から人の数だけ意見がある事を知り、これからの自分には多くの人々の意見を聴き、まとめあげる能力が必要になると思いました。(第1学年)

中島 陽

ワールド・カフェに参加しました。従来は学部の枠を超えて一同に集まり、リラックスした雰囲気の中で意見交換を行うはずでしたが、コロナ禍のためオンラインでの開催となりました。歯学部の同級生でさえ、数回しか会ったことがない状況下で、全く知らない他学部の複数の人とオンラインで意見交換することは不安でした。しかし、実際ワールド・カフェが始まると、個人差はあるものの、想像以上に皆がそれぞれに意見を述べたり、求めたりしながら、何とかお互いを理解しようとする熱気の中、あっという間に時間切れとなりました。

私にとってオンラインでのワールド・カフェは、如何なる条件下であろうと、例え実際に対面は出来なくても、コミュニケーションをとろうという気持ちさえあれば、自分の意思を相手に伝え、相手の意思や状況を汲み取れるということをも身をもって知ることが出来た良い経験となりました。

(第1学年)



ワールド・カフェ

上原 任

初年次教育科目として定着した自主創造の基礎(第1学年)ですが、自主創造の基礎2の中で特に日本大学らしさを感じられる、日本大学ワールドカフェ(N-Mix)が10月11日(日)に行われました。例年、歯学部学生は他の複数のキャンパスに移動して、他学部の学生と色々なテーマについてグループディスカッションに取り組み、多様な価値観と広い視野を養う授業に参加してきました。歯学部教員も近隣の会場で他学部教員とのチームで指導にあたるという、学生も教員もそれぞれミックスされる授業が行われていました。今年は感染拡大防止のためオンライン会議室システムを使用して遠隔で実施する事になり、初めて設置された歯学部会場の運営が割り当てられました。サイバースペースの歯学部会場に迎えた学生は、法学部13名、文理学部24名、経済学部19名、商学部15名、芸術学部11名、国際関係学部10名、危機管理学部5名、スポーツ科学部4名、理工学部20名、生産工学部22名、工学部35名、歯学部2名、生物資源科学部5名、薬学部3名、短期大学部(船橋)4名、同(三島)1名の合計193名で、オンラインの利点を活かした構成となりました。筆者は「カフェマスター」として授業の進行役を務めました。学生に

与えられたテーマは全学共通で、①大学に入学してチャレンジしたかったことは何ですか?②大学生の「私」はこれから何をすべきだとおもいますか?でしたが、各グループともに熱い話し合いが行われたようで、授業の終わりには名残惜しそうに挨拶を交わす様子が見られました。今回、「チーム歯学部」で歯学部会場を運営しましたが、当日3号館にお集まり頂いたファシリテーターの先生方、ネットワークの稼働やオフラインでの連絡をお願いした事務方の協力でオール日大約16,000人が参加した大イベントの一部、2時間半ほどの授業を無事終了させることができました。御礼申し上げます。



(専任講師 医療人間科学分野)

SCR P

黒澤 佑介

2020年8月26日、令和2年度日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCR P)日本代表選抜大会に出場致しました。

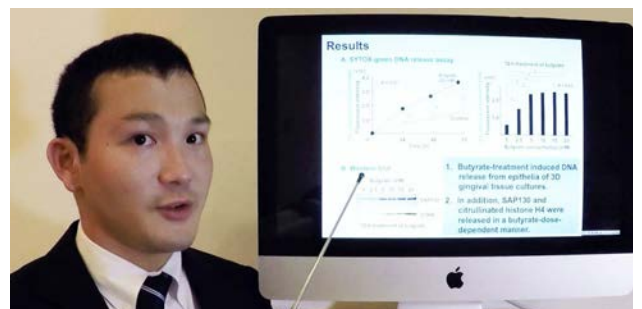
「歯周病原細菌代謝産物酪酸が三次元歯肉組織培養系に及ぼす影響」"Effects of butyrate-treatment on three-dimensional gingival tissue cultures"を研究テーマとして約1年半、生化学研究室にて津田啓方先生のご指導の下研究に励んでまいりました。

私の研究では、患者さん由来の線維芽細胞を用いて、二次元での細胞培養と比較してより生体内での状態に近い三次元培養系を作製して実験を進めていきました。生きている細胞を用いた研究は難しく、安定した三次元培養系を確立するには時間を要しました。最初は実験に関する基礎知識がなく、器具・機器の取り扱いも慣れない中で一つ一つ丁寧に時間をかけてご教授頂いた先生方に感謝の意を表します。

今年は新型コロナウイルスの影響もあり、数ヶ月間に渡り研究をストップせざるを得なくなりました。いつから研究を再開させることができるのか、という不安に苛まれながらの日々を過ごすことになりましたが、先生方の尽力にも助けられなんとか形にすることができました。

また今年度は審査も発表動画を大会主催者へ送るという形で行われました。自ら発表動画を撮影するのは初めての経験であり、試行錯誤を繰り返して動画を完成させたのは会場での発表とはまた違った意味で良い経験が出来たのではないかと前向きに捉えています。残念ながら上位入賞という結果は得られませんでした。この研究を通して得られた知見、興味が今後学習していく上での糧となると信じています。

最後に、協力してくださった方々、研究の共同研究者として力をお借りした第5学年山口君、ご指導いただきました生化学講座津田准教授をはじめとする先生方に心より感謝申し上げます。(第5学年)



JPS 第2回 Student Clinical Skills Competition

小平 晃久

歯学部6年生の四本翔さんが、日本補綴歯科学会主催の第2回JPS Student Clinical Skills Competition 全国選考の優秀賞を受賞しました。JPS Student Clinical Skills Competitionは、的確な臨床判断能力と、高いレベルの臨床技能を有する歯科医師を育成するために企画された、全国の歯学部学生を対象とした臨床技能試験です。試験課題は「保険収載CAD/CAM冠を想定した下顎右側第二小臼歯の支台歯形成」をファントムマネキンに装着した顎歯模型上にて30分間で行う、というものでした。支台歯の写真に加えて、歯列分析ソフトにて支台歯形成前後のSTLデータを重ね合わせて計測した削除量や支台歯軸面のテーパーをもとに評価されました。2019年に行われた第1回の同大会では、全国の歯学部から参加者を募り、各大学の代表者から上位の学生を6名選出し、最終審査会場での実技審査にて上位3名を順位付けしました。しかし本年度では新型コロナウイルスの影響により、一堂に会しての最終審査は行われませんでした。

今回受賞した四本さんは、第5学年の年度末に日本大学歯学部の代表として選ばれました。選出されてからは試験勉強や臨床実習のレポート作成の合間を縫って、放課後に支台歯形成の練習を行いました。筆者は形成練習の監督をした縁で、この記事の筆を執ることになりました。形成練習の機会はわずかでしたが、アドバイスを受け止めて回数を経るごとに上手くなっていく様は気持ちがいい程でした。形成練習以外で

も、四本さんは臨床実習でお世話になった先生方からアドバイスや激励を多く貰ったそうです。彼の



四本翔さん(左)と小平先生

人柄からか、応援したくなる先生が多いのかもしれませんが。こうして周りからの助けを受け、ひたむきに努力した結果が今回の受賞につながったのだと思いました。

(助教 歯科補綴学第Ⅲ講座)



クラス短信



コロナ禍でも止まらない学習

第4学年 高田 紋花

まさか、世界中が混乱に陥るなんて、外出ができなくなるなんて、大学に行けなくなるなんて、想像もしていませんでした。驚きと困惑のままに遠隔授業が始まってもう半年以上が経ちます。当初は本来歯学部生として学ぶべきことを学びきれないのではないかという心配や、自宅で1人で学習を進めなければならないことへの不安でいっぱいでしたが、先生とリアルタイムで資料を共有しながらの授業や、動画を見たり、試験を行ったり、質問をしたりと大変充実した授業を受けさせていただいております。新型コロナウイルス感染症により今までとは全く違う大学生活となってしまいましたが、この前代未聞の事態においても、私たち学生は学習を止めることなく前に進むことができました。これは多くの方々の支えなくしては決して実現できなかったことだと思います。学生の学習が止まることのないよう尽力してくださった先生方、職員の皆様、フェイスシールドを寄付してくださった同窓会の皆様に、心より感謝いたします。

コロナ禍での学習

第4学年 平畠 嘉哉

今年度に入る前に新型コロナウイルスの感染が広がり、感染への恐怖と同時に、授業が今後どのように行われるのかが心配だったことをよく覚えている。4年生の終わりにはCBTとOSCEという大きな試験が待ち構えているため、オンライン授業に移行したとして例年学べる内容を同じようにしっかりと学べるのかという不安が大きかった。4年生は特に実習に多くの授業時間数が割かれており、はたして実習を行えるのか、また行うとしてもどのように行われるのかなどの心配を、私だけでなく友人も口にしていた。

前期の実習に関しては、課題やレポートで行われた授業がほとんどで実際に手を動かさないのは残念だった。しかし後期に入り実習室で実習を行えるようになり、初めての状況の中で不慣れなこともあるがしっかり学ぶことができているという実感がある。実習で学んだことが来年以降の院内実習、または将来、歯科医師になってからも大きく生きてくるので今後もしっかりと学んでいきたい。

院内実習を経験して

第5学年 今井 優里

5年生も残すところあとわずかとなりました。昨年は新型コロナウイルスの流行による遠隔授業、初の院内実習形態など初めてのことばかりを経験しました。特に前半のころは先行きの見えないまま自粛が続き、進級できた喜びと漠然とした不安を抱えて過ごしていました。しかし感染対策を踏まえたうえで院内実習が実施されることとなり歯科医師という夢の実現が見えてきたことで、先を見据えて進んでいかなければならないということに気が付きました。院内実習では講義で習ったことを実際に目で見ることができ、今までの実習とはまた違った現場での雰囲気を感じることで日々学びを得ることが多いです。また5年生ではいよいよ国試にむけて備えていくことが重要となり、どの学習も国試に通じているという積み重ねの大切さを実感しております。

私は歯科医師という道を考え始めたのが遅く、周りの同級生に比べて将来を曖昧に考えたまま入学しました。しかし院内実習で様々な科の治療や先生方と触れ合う機会を得たことで、改めて将来について考えることが増え、国試について、将来どの科に進むのかなど1年生の時は遠く先に見えていた未来像が近づいてきたことを嬉しく思います。それと同時に歯科医師という職業や患者さんの治療を担う責任についても、意識していかなければならないと感じるようになりました。

新型コロナウイルスの流行により私たちの生活は変わりました。いまだに苦しい状況下にいらっしゃる方もいると思います。その方たちが一日も早く元の生活に戻れることを願っています。しかし医療現場に関わる者として5年生という院内実習が始まる学年で再び医療従事者としての責任を思い直したこと、また時間に余裕があったことで将来に関してじっくり考える時間が取れたことは自分にとってプラスでした。昨年育んだ経験や考えを無駄にせず前を向いて進んでいきたいです。



オピニオン

○2020年は新型コロナウイルス感染症により社会全体が大きな影響を受けました。このようなパンデミック発生については以前から危惧されていましたが、それが現実のものとなってしまいました。影響は世界全体におよんで、日常生活も外出自粛、在宅勤務、リモート会議、遠隔授業など従来とは異なる生活様式となり、臨機応変に対応することが求められる事態となりました。今後もこのような今までの慣習や日常生活の常識が維持できない大きな変化が起きてその対応が必要となる事態は、パンデミック以外にも様々に考えられます。従来の考え方に囚われずに、また、不確かな情報に惑わされることなく、どのような事態にも対応することが出来る力を個人のみならず組織においても養っていくことが必要と感じています。 **米原 啓之(口腔外科学第Ⅱ講座)**

○一教師として、また一研究者として、学習者の動機づけがどのように学習に影響を与えるのか、また人間はどのように情報を受信・理解・応用するのか、それらのメカニズムに興味があります。最近では北原義典著『イラストで学ぶ認知科学』(講談社、2020年)を読み、人間が情報を理解する様々な仕組み、言語理解の構造、情動や社会的認知、コミュニケーションや錯覚、そして脳の働きをまた少し学ぶことができました。特にディープラーニングやインターネット上のコミュニケーションは、学習環境のみならず、これからの生活において多くの人々に多大な影響を及ぼす分野で、注視の必要性が高いと思います。これらの知識を本学部学生の効果的学習にいかにかけるかは、私の努力と技量に掛かっているのでしょうか。 **田嶋 倫雄(外国語(英語)分野)**

○将来が不安であるという相談を受けたことがある。歯科医師過剰でやっていけるか不安なのだそう。確かに今まで通りの歯科医師を考えていたらそのような結論になってしまうのかもしれない。しかし、いろいろと考え、歯科医師として人々の役に立つところで活躍できる場を自分(達)で増やしていけばどうだろうか？先が見通せない時には不安がでてくるが、自分(達)が先導してその世界を作っていけば、最先端にいる訳なので不安はなくなるのではないだろうか。そのための力をつけるべく、勉強し、いろいろと考え、友人と議論していただきた。今行っている勉強は、試験通過の為だけでなく、皆さんの将来を積極的に生きていくためと考えてみてはどうだろうか？ **津田 啓方(生化学講座)**

○第1学年前期に開講される「生涯スポーツ」(体育実技)をオンライン授業でおこないました。仲間と一緒にバレーボールや卓球、ボウリングといった運動が実施できないので、特別な用具や場所を必要とせず、学生が一人で実施できるウォーキングやジョギング、ラジオ体操といった運動課題を取り入れました。この授業を通して、ウォーキングやジョギングが習慣づいた学生も中にはいたようです。かくいう私も4月以降、週に3日はジョギングを継続しています。姿勢が良くなり、首や肩のコリもなくなりました。しかしながら、体重は一向に減りません。加齢により筋肉量が落ちて基礎代謝が低下しているのでしょうか？次は筋力トレーニングに取り組みうかと計画中です。対面授業が再開された際には、学生に負けにくい程度の体力がついているはず(?)です。 **佐藤 紀子(健康科学分野)**

○研究資料としてコピーした紙媒体の論文は、その場しのぎの管理しかしていないので、数が多くなると、必要なものがすぐに見つからないなど大変な思いをする。そこで、2年前から電子ファイルとして保存してあるなら紙コピーのほうは捨てようと思いつき、資料整理を日課にしていた。ある日の整理でH氏の論文を手にとった。コピーした当時は必要な前半部分だけを読んでいただけののだが、捨てるに際して、折角コピーしたのだからモッタナイという貧乏根性が頭をもたげて、後半部分に軽く目を通して見た。すると、十年来抱いていた疑問に対するヒントが見つかり、考察すること数分、その疑問がいとも簡単に氷解した。これを論文にまとめるにはもう少し内容の充実が必要と感じつつ、4ヶ月ほどたった頃、日課の整理で捨てようとしたS氏の論文が幸運をもたらした。存在すら忘れていたS氏の論文の主要結果を読んで、新しい定理を得る糸口を見出せ、研究論文にまとめる目処がついた。

「ときめく」がキーワードの海外でも有名なコンマリ流の整理術とは比すべくもないが、「微風が吹いて桶屋がボロ儲け」的な僥倖に恵まれて、研究論文が1つ仕上がったという断捨離の意外な効果のお話でした。 **宮崎 洋一(数理工学分野)**

■ 附属専門学校から

歯科技工専門学校

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う自宅待機で始まり、5月の連休明けからようやく遠隔授業が開始となりました。入学式が執り行われなかった新入生は、同級生と一度も顔を合わせることなく始まりましたが、若者世代らしくオンラインでのコミュニケーションだけでクラスを上手に形成していました。技工専門学校は学生数が少ないため、実習室にアクリル製の仕切り板を設置するなど感染症対策の徹底を図ったうえで、7月から対面での講義と実習を開始しました。3年生はいよいよ国家試験を迎えます。このような社会状況のなか、例年以上に大変な試験となりますが、実力を十分に発揮できるように、教職員一同で支援していきます。



歯科衛生専門学校

令和2年10月31日に、日本大学歯学部百周年記念講堂にて日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校第62期生(2年生)の戴帽式を執り行いました。本年は新型コロナウイルス感染予防拡大の観点から、3密を避けた略式での執り行いとなりました。戴帽者の呼名を行った後に、校長式辞、歯学部長告辞、病院長訓辞、そして最後に校歌演奏を行い、厳粛な雰囲気の中で式は終了しました。尚、授業形式におきましては、1、2年生では遠隔授業と対面授業を、新型コロナウイルス感染の感染状況に応じ、柔軟に切り替えて行っています。また3年生は国家試験全員合格を目指して忙しい毎日を送っています。教職員一同、歯科衛生専門学校生が毎日充実したキャンパスライフを過ごせるように、全力でサポート、および応援をしていきます。

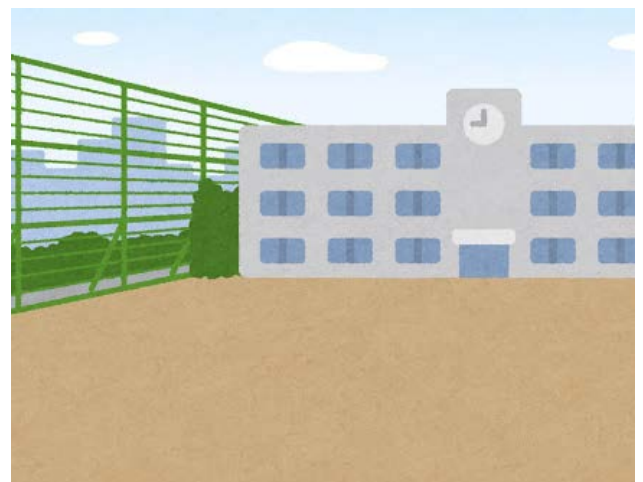


NewsPlus α

学生の活躍

日本大学ではこれまでに延べ450名を超えるオリンピック選手を輩出しています。34の競技部があり、約2400名の学生が日本大学競技スポーツ部所管の各競技部に所属しています。総合大学の特色を活かし本学部や医学部と連携しつつ、競技特性にあったトレーニングがおこなわれています。本学部にも競技部に所属し、日々鍛錬を重ねている学生がいます。第1学年中村健太郎さんです。陸上競技部でやり投げをしています。

「本学部に入學して、学業と陸上競技を並行して行う生活が続きました。競技は昨年10月に1年目のシーズンが終了しました。日本大学の代表として出場した全日本インカレは予選落ち、関東インカレも予選落ち、U20全国陸上競技大会では3位と、納得のいく試合が出来ずに終わりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために無観客試合になったり、試合の試技数が減ったり、今までとは異なった試合形式に対応出来なかったのが、今シーズンの反省点です。学業との両立にもようやく慣れてきたので、来年こそは、より高いレベルのパフォーマンスができるように、この冬は練習に取り組みたいと思います。これからも応援の程宜しくお願いします。」(第1学年 中村健太郎)



学 事

令和3年度入学試験

【一般選抜 (N全学統一方式第1期) (日本大学が実施する入試)】

- ◆募集人数 5名
 - ◆出願期間 令和3年1月5日(火)～1月22日(金)
 - ◆試験期日 令和3年2月1日(月)
 - ◆合格発表 令和3年2月12日(金)
 - ◆入学検定料 24,000円
 - ◆選考方法 ①数学①[数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(確率分布と統計的な推測を除く)] ②理科[物理基礎・物理]、[化学基礎・化学]、[生物基礎・生物]のうちから1科目選択 ③外国語[コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ]
- ※理科において、医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。

【一般選抜 (A個別方式) (歯学部が実施する入試)】

- ◆募集人数 57名
 - ◆出願期間 令和3年1月5日(火)～1月22日(金)
 - ◆試験期日 令和3年2月3日(水)
 - ◆合格発表 令和3年2月12日(金)
 - ◆入学検定料 50,000円
 - ◆選考方法 ①数学[数学Ⅰ・数学Ⅱ] ②理科[物理基礎・物理]、[化学基礎・化学]、[生物基礎・生物]のうちから1科目選択 ③外国語[コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ] ④小論文(60分・字数は当日指定) ⑤面接
- ※理科の選択科目において、平均点に20点以上の差が生じた場合は、得点調整を行う。

【一般選抜 (C共通テスト利用方式第1期) (大学入学共通テストを利用する入試)】

- ◆募集人数 10名
 - ◆出願期間 令和3年1月5日(火)～1月22日(金)
 - ◆試験期日 ◇大学入学共通テスト
令和3年1月16・17日(土・日)
 - ◆合格発表 令和3年2月12日(金)
 - ◆入学検定料 24,000円
 - ◆選考方法
◇大学入学共通テストでは、下記の教科・科目を受験すること。
①国語[近代以降の文章のみ利用] ②理科[物理][化学][生物]のうちから1科目選択 ③外国語[英語]
- ※理科(基礎を付していない科目)において、2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。外国語[英語]において、リスニングの成績は利用しない。

【一般選抜 (C共通テスト利用方式第2期) (大学入学共通テストを利用する入試)】

- ◆募集人数 3名
 - ◆出願期間 令和3年1月5日(火)～2月18日(木)
 - ◆試験期日 ◇大学入学共通テスト
令和3年1月16・17日(土・日)
 - ◆合格発表 令和3年3月2日(火)
 - ◆入学検定料 24,000円
 - ◆選考方法
◇大学入学共通テストでは、下記の教科・科目を受験すること。①理科[物理][化学][生物]のうちから1科目選択②外国語[英語]
- ※理科(基礎を付していない科目)において、2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。外国語[英語]において、リスニングの成績は利用しない。

人 事

=退職(定年)=

専任教員 長澤 治子 歯科衛生専門学校 2.12.31

=退職(依願)=

書 記 竹中 真澄 庶務課 2.11.30

お知らせ

歯学部行事予定

- 1月 24日(日) 第4学年CBT
- 25日(月) 卒業者発表
- 30日(土)・31日(日) 第114回歯科医師国家試験
- 2月 1日(月) 一般選抜(N全学統一方式)
- 3日(水) 一般選抜(A個別方式)
- 12日(金) 一般選抜(N全学統一方式, A個別方式, C共通テスト利用方式第1期) 合格者発表
- 13日(土) 第4学年OSCE
- 19日(金) 第4学年CBT追・再試験
- 3月 2日(火) 一般選抜(C共通テスト利用方式第2期) 合格者発表
- 6日(土) 大学院入学試験(第2期)
- 16日(火) 大学院入学試験(第2期) 合格者発表
- 16日(火) 第114回歯科医師国家試験合格発表
- 19日(金) 第1～5学年進級者発表
- 25日(木) 日本大学歯学部卒業式・学位記伝達式

寄付金の受け入れ

(令和2年11月25日現在)

=研究助成金=

- 50万円 クラレノリタケデンタル株式会社
歯科保存学第Ⅰ講座へ
(代表取締役社長 有川 清之 殿) 2.9.30
 - 50万円 クラレノリタケデンタル株式会社
歯科補綴学第Ⅲ講座へ
(代表取締役社長 有川 清之 殿) 2.9.30
 - 10万円 一丸ファルコス株式会社 細菌学講座へ
(執行役員 開発部長 アルナシリ イダマルゴダ 殿) 2.11.6
- =佐藤奨学・研究基金=
- 100万円 平野 晃 殿 2.9.23

編集後記

2021年を心新たに、新しい朝を迎えたことと思います。
2020年は本来なら、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本が世界に向けて大きく躍進する年であったはずですが、しかし、全世界を巻き込む新型コロナウイルス感染症の影響により、それが大きく変化しました。
我々の日常も例外ではありませんでした。多くの講義が遠隔となり、さらには遠隔講義と対面講義のハイブリッド形式となったりと、学生や我々教職員にとって、そして保護者の方にとりましても全てが手探り状態での発進であったと思います。それが今となってはその状況にも慣れ、今までの非日常が日常化するようになってきました。しかし、歯学部においては対面での講義・実習が欠かせないものがあります。本年は新しい日常の中で、将来の医療従事者として十分な認識を持ち、感染症対策を取りながら有意義な学生生活が送れる1年となることを、年の初めに祈るばかりです。(T.I)

表紙の写真は佐藤紀子先生(健康科学分野)にご提供頂きました。

第209号 日本大学歯学部発行
東京都千代田区神田駿河台1-8-13 TEL 03(3219)8001